

昨年度の実施状況について(旧 農業インターンシップ事業)

◆事業実施の背景

【現状】農業経営者の減少と高齢化により、本市農業の持続性が低下している状況
 【課題】40代以下の青年農業経営者を確保する必要
 【対応】本市農業の魅力を高め、本市で就農する若者を増やす

年齢層	～29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	計
2005	1	26	147	442	533	710	1859
2010	1	11	94	362	433	645	1546
2015	0	9	48	163	395	475	1090
2020	1	19	30	109	275	477	911
2030	1	10	10	39	186	325	571

※2005～2015：農林業センサス「年齢別農業経営者数(販売農家)」、
 2020：農林業センサス「経営主年齢層別の経営体数(総数)」、
 2030：千葉市農政部にて試算



未来の青年農業者育成事業(令和3年度～)

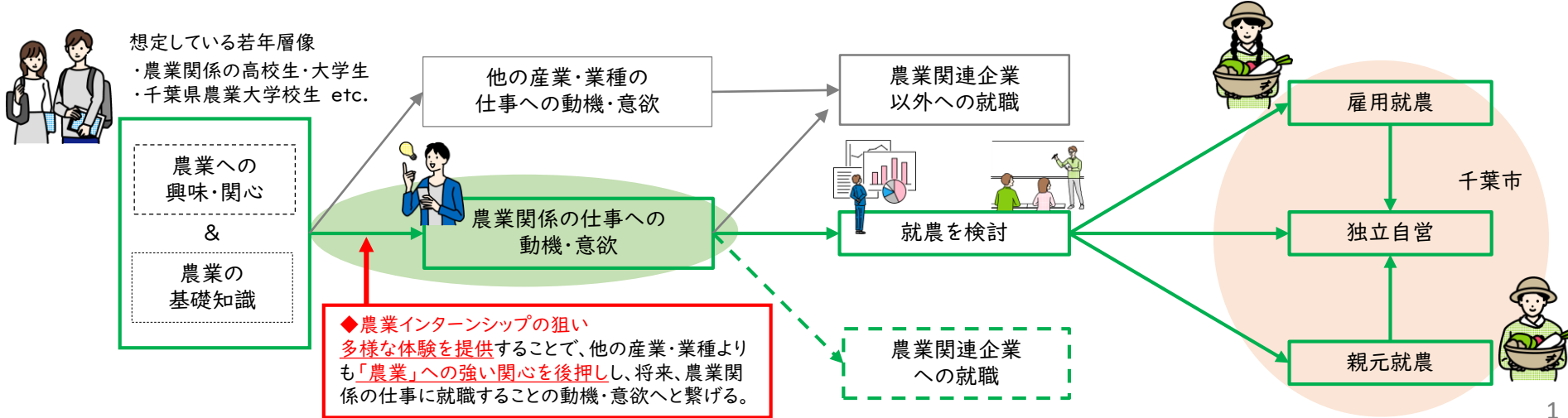
新規就農・地域の即戦力となる担い手へ

- ①農業経営を志す若者等 → **ニューファーマー育成研修**
 地域の担い手となる新規就農者(後継者を含む)を育成するため、生産の基礎から経営的視点の育成までを一貫した総合的な研修を実施。
- ②高校生・大学生 → **農業インターンシップ事業**
 将来的に千葉市で就農する農業者を確保するため、高校生や大学生に対し、千葉市内の農業者のほ場等における農業体験や交流などの多様な体験を提供し、将来的な千葉市での就農意欲を高めるきっかけづくりを行う。
- ③小・中学生 → **次世代向け農育講座**
 土壌学や植物生理学などの本格的な農学や、農に関連する技術を実習中心に学び、実際に畑に出て五感を最大限活用して「農」を体感することで農業への関心を高め、将来の職業選択の1つとして農業を意欲するきっかけづくりを行う。



◆農業インターンシップ事業の目的

農業への興味・関心と農業の基礎知識を持つ若年層に対し、千葉市農業の多様な体験を提供することで、**他の産業・業種よりも「農業」への強い関心を後押しし、将来的に千葉市で就農することの動機・意欲へと繋げる。**



昨年度の実施状況について(旧 農業インターンシップ事業)

◆令和5年度の実施状況(旧 農業インターンシップ事業)

農業者	時期	募集人数	参加人数	農業体験	交流体験
A社	7月(3日間) 8月(3日間)	10名	9名	○夏野菜の収穫作業 ○収穫した野菜の出荷調整作業 ○除草作業	○農業法人についての説明 ○経営戦略についての説明 ○就農人生年表の作成
B社	9月、10月 (計7日間)	5名	5名	○イチゴの定植に係る一連の作業 (定植後の直し、片づけ、ハウス内清掃、ランナー除去 等)	○農園の概要の説明 ○農園リノベーションについてのディスカッション
C社	8月 (3日間)	8名	6名	○生落花生の収穫・出荷 ○種用落花生の収穫 ○煎り用落花生の洗浄と選別	○経営理念の説明 ○商品開発・広報戦略の説明 ○6次産業化についてのディスカッション
D社	8月、10月、11月 (計6日間) 11月(3日間)	14名	5名	○人参の根切り・葉切り・収穫 ○大根の収穫・選別 ○長ネギの出荷調整作業	○経営戦略・会社理念の説明 ○法人化までの経緯の説明
合計		47名	25名		

☆参加者の声(農業関係の仕事への動機・意欲が高まった理由)☆

●就農(新たに農業を営むこと)

農業に係る一連の作業を体験し、**農業の大変さを実感**。作業に対する精神的な苦痛などではなく自分が**農業に関わることが好きである事を改めて実感**することが出来たため。(受入先:A社)

イチゴの定植に係る一連の作業をしたことで、経営者であればある程度の裁量があることが分かった。また、農園リノベーションを通じて、**販売するためにはお客さんからどう思われるかの工夫が必要だと感じ、実際にその場に行ったことで知ることが多かったため**。(受入先:B社)

●千葉市で就農(新たに農業を営むこと)

今までは農業をするなら地元で、と考えていたが、今回のインターンシップを通じて、地元の人ではない従業員の方がたくさんいて、**地元以外で農業することも面白いと感じたため**。(受入先:D社)

●農業法人への就職

農業法人でどのようなことをしているのか、またどのようにして従業員のスキルアップを図っているのか**実際に話を聞くことができたため**。(受入先:A社)

●千葉市の農業法人への就職

自治体と農家は距離感が遠い印象があったが、千葉市農政課の方と農業者さんがお話しされているのを見た時、とても距離感が近い印象を受け、**素敵な関係性だと感じたため**。(受入先:C社)

千葉市は商業施設と住宅地が中心で、農業のイメージが無かったが、**交通の便が良い都市部でもそれなりの規模で農業が行われていることを知ることができたため**。(受入先:A社)

●農業に関係する仕事への就職

今年は小松菜の生育が悪く質があまり良くないと話しているのを聞き、**強い種苗の開発や農業、肥料の面から生産者のことを支えることができたならと考えるようになったから**。また、**化学や遺伝子工学を学んでおり、その知識を生かすことができるかもしれないと考えたから**。(受入先:A社)